



休憩所一覧



地図
1-A

石見銀山資料館(大森代官所跡)
大田市大森町851-1
☎0854-89-0846



地図
1-B

石見銀山公園(観光案内所)
大田市大森町824-3
☎0854-89-9090



地図
1-C

ゴールデンユーピアおおち
邑智郡美郷町粕淵57-1
☎0855-75-1670



地図
2-D

道の駅 赤来高原
飯石郡飯南町下赤名880-3
☎0854-76-2007



地図
3-E

道の駅 ゆめランド布野
三次市布野町下布野 661-1
☎0824-54-2929



地図
3-F

広島県立みよし公園
三次市四拾貫町神田谷
☎0824-66-3366



地図
4-G

ロードサイドミュージアムXa104
三次市吉舎町吉舎349-2
☎0824-43-3122



地図
5-H

道の駅 クロスロードみつぎ
尾道市御調町大田33
☎0848-77-0806



地図
6-I

しまなみ交流館
尾道市東御所町10-1
☎0848-25-4073



沿線地域の観光・施設に関するお問合せ



大田市観光振興課
大田市大田町大田口1111
☎0854-82-1600(代)

地図 2
飯南町産業振興課
島根県飯石郡飯南町下赤名890
☎0854-76-2214

地図 4
府中市上下歴史文化資料館(観光案内所)
府中市上下町上下1006
☎0847-62-3999

地図 6
尾道観光協会
尾道市長江一丁目3-3
☎0848-37-9736

地図 1
大田市観光協会(銀山公園)
大田市大森町826
☎0854-89-9090

地図 3
三次市観光交流課
三次市十日市中二丁目8-1
☎0824-64-0066

地図 5
世羅町企画課
広島県世羅郡世羅町西上原123-1
☎0847-22-3206

地図 1
美郷町企画課
島根県邑智郡美郷町粕淵168
☎0855-75-1924

地図 3
三次市観光協会(JR三次駅構内)
三次市十日市南一丁目1-1
☎0824-63-9268

地図 5
世羅町観光協会
広島県世羅郡世羅町西上原121-5
☎0847-22-4400

地図 1
美郷町観光協会
島根県邑智郡美郷町粕淵400-7
☎0855-75-0805

府中市産業活性課
府中市府川町315
☎0847-43-7135

地図 6
尾道市観光課
尾道市久保一丁目15-1
☎0848-25-7184

〈島根県観光の問合せ先〉

島根県商工労働部観光振興課
〒690-8501 島根県松江市殿町1番地 ☎0852-22-5292
<http://www.pref.shimane.lg.jp/kanko/>

銀の道 ツーリングマップ TOURING MAP

～世界遺産「石見銀山」と
港町・尾道をつなぐ～

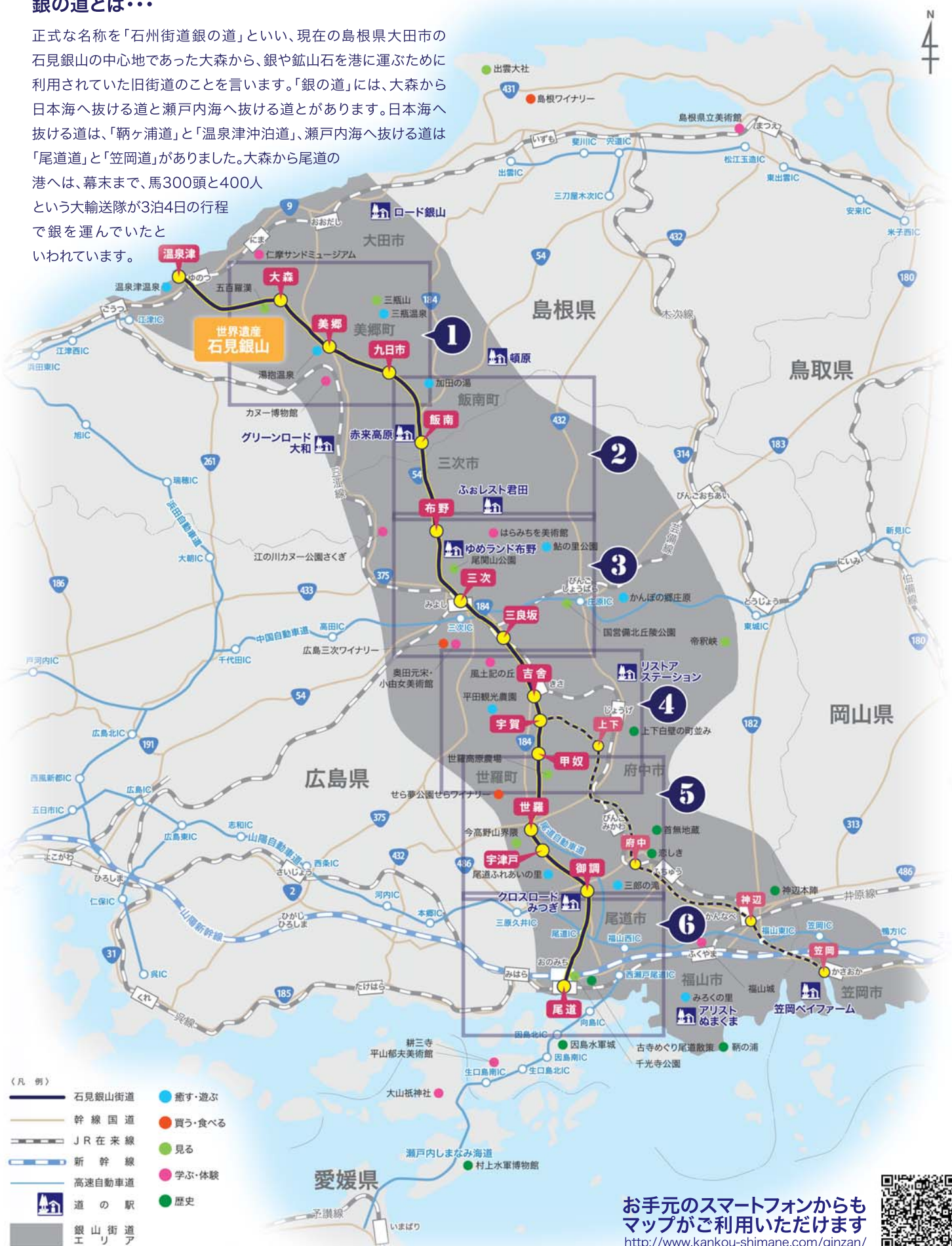




銀の道全線MAP

銀の道とは・・・

正式な名称を「石州街道銀の道」といい、現在の島根県大田市の石見銀山の中心地であった大森から、銀や鉱山石を港に運ぶために利用されていた旧街道のことを言います。「銀の道」には、大森から日本海へ抜ける道と瀬戸内海へ抜ける道とがあります。日本海へ抜ける道は、「鞆ヶ浦道」と「温泉津沖泊道」、瀬戸内海へ抜ける道は「尾道道」と「笠岡道」がありました。大森から尾道の港へは、幕末まで、馬300頭と400人という大輸送隊が3泊4日の行程で銀を運んでいたといわれています。



- （凡 例）
- 石見銀山街道
 - 幹線国道
 - JR在来線
 - 新幹線
 - 高速自動車道
 - 道の駅
 - 銀山街道エリア
 - 癒す・遊ぶ
 - 買う・食べる
 - 見る
 - 学ぶ・体験
 - 歴史

お手元のスマートフォンから
マップがご利用いただけます
<http://www.kankou-shimane.com/ginzan/>



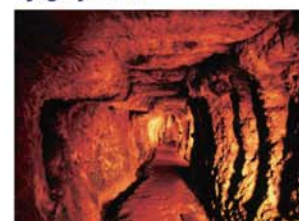
銀山からはじめよう！

歴史浪漫をめぐるツーリングへ 石見銀山からはじめよう！

「銀の道」の出発点は島根県大田市の大森銀山。環境に配慮し自然と共存した鉱山運営が評価され、ユネスコの世界文化遺産に登録されてからは、多くの人々が訪れています。特に銀の産出でにぎわった当時は、古くは町並みが今も残る大森地区には、おしゃれなお店や観光スポットが並び、一日ゆったり見て回っても飽きることはありません。さあ、銀の道をサイクリングで極める前に、まずは、銀のまちから、軽く足馴らしといきましょう。

龍源寺間歩

Ryugenji mabu



石見銀山の間歩群では7カ所が国の史跡として登録されており、現在唯一公開されているのが龍源寺間歩。壁面には、銀を採掘した当時のノミの跡が残っています。



石見銀山の外郭町を成す地域。武家屋敷や商家、社寺などが建ち並ぶ。



石見銀山の中心で間歩と呼ばれる坑道跡がたくさん残っています。



佐毘売山神社

Sahimeyama jinja



16世紀中頃に創建された、精錬の神・金山彦命（かなやまひこのみこと）を祀る神社。山神社の中で国内最大級の社殿を誇り、当時の隆盛を物語っています。

羅漢寺

Rakanji



石見銀山は比較的良好な労働環境だったと言われていますが、落盤事故などで亡くなる人もいました。この寺は、労働者の安全祈願と死没者の霊を慰めるために創建されました。

石見銀山資料館

(大森代官所跡) Iwamiginzan shiryokan



1902(明治35)年に建てられた逓摩郡(にまぐん)役所をそのまま利用した資料館。かつて大森代官所が建っていた場所でもあり、その跡は国の史跡に指定されています。



※このエリアは町並み保存地区(大森銀山重要伝統的建造物群保存地区)になっています。

五百羅漢

Gohyakurakan



左右の石窟に、それぞれ250体ずつ羅漢像が安置されています。石工の坪内平七とその一門によって約20年の歳月をかけて彫像され、一体一体表情や姿が違います。

銀の道 CYCLING MAP



華やかなりし銀山の繁栄と、
相反する険路に触れる。



大森



石見銀山公園



路上
にて

万葉の歌人、
終焉の地ははたして一。★

柿本人麻呂の終焉の地は諸説あり、謎が多いという。医者であり、アララギ派の歌人であり、万葉集研究の第一人者でもあった斎藤茂吉は研究の末、邑智町（現・美郷町）湯抱にある鴨山を、その地と定めた。斎藤茂吉鴨山記念館には、20年以上に及ぶ研究の遺墨や遺品、写真、書物などが展示され、「夢のごとき「鴨山」恋ひて われは来ぬ 誰も見しらぬ その「鴨山」を」という歌碑が建っている。万葉の歌人が人生を終えた地は、いずこか。



①大森代官所跡
江戸時代、幕府は石見銀山を直轄支配し大森に奉行所（後に代官所）を置いた。現在は石見銀山資料館となっている。



⑤五百羅漢
五百羅漢像には島根を代表する石材・福光石が使われている。これは淡い青緑色の軟質凝灰岩で、古くから石仏、灯籠、墓石に利用されてきた。



⑥石見銀山世界遺産センター
石見銀山の歴史や鉱山と暮らしの学習施設。ガイダンスコーナーや遺跡立体模型、遺跡クイズなど、より深く石見銀山を体感できる。



⑦萩原（おきわら）千軒
ここは輸送隊最初の休憩地で、当時は宿場町として栄え、多くの家並みが連なっていたことから「萩原千軒」と呼ばれるほどであった。



⑨井戸平左衛門碑
第19代大森代官「井戸平左衛門」は、飢饉時用の作物としてサツマイモを導入し、多くの命を救った。周辺の町村には感謝の碑が多く建てられている。



⑩幕末の頃の本陣
江戸時代の終わり、大森に赴任する代官は林家に宿泊した。当時の佇まいを残し、旅館「竜遊亭」として現在も引き継がれている。



②熊谷家住宅
町並み保存地区で最大級の商家建築である「熊谷家住宅」は、県重要文化財となっている。有力商人の地位や生活の変遷がわかる。



④梅と瓦の広場
県道31号線沿いにある、赤く光る石洲瓦が目印の広場。春の訪れとともに、梅がきれいに咲きほころぶという。



③梅雨左衛門の碑
由来は定かでないが、昔から「腰から下の病」に霊験があると言われて、今でも参拝者が絶えない。



⑧箱茂（はこも）のお松
銀の道はここから美郷町に入る。この松の下は、道行く人々の休憩場所で、当時から「箱茂のお松」と呼ばれ親しまれていた。



⑩小原の本陣跡
輸送隊は小原で馬替えと昼食休憩をする。ここは江の川舟運と銀山輸送路の交点となる要衝の地。本陣跡もある。



⑪半駄の峡（はんだのかい）
街道は江の川に臨む急な断崖の上をいく。荷物を半分にしなければ、通れない程の危険な道であることから、この名が付いた。



⑬石原の古道
街道は江の川から別れ、支流の沢谷川に沿って飯南に向かう。県道と並行して当時の道筋が山側に残っている。



凡例	
銀の道（サイクリング）※	主な施設
P 駐車場・駐車可能場所	トイレ（車いす可）
男女 トイレ	レストラン・食堂

※銀の道に最も近いと思われる車道をサイクリングコースに設定していますが、本来の銀の道とは異なる場合があります。

「銀の道」の大部分は、地域の皆さんの生活道路です。交通法規を守り、迷惑運転にならない様、注意して運転してください。

0 1,000 2,000 3,000m



九日市

飯南

布野

2

九日市

布野

銀の道

CYCLING MAP

激しい合戦と厳しい国境越えは、
文学のみちにつながる。

銀の道最大の
難所で国盗り合戦。★

銀山街道の最大の難所と言われる標高680mの赤名峠(10)。かつては、出雲国と備後国が協力しあって物資を運んでいた歴史もある。そんな赤名峠で毎年4月、「国盗り綱引き大会」というイベントが開かれている。山頂にたずむ出雲国・備後国の当時の国境を示す石碑をバックにして、小学生から大人までの計6チームが綱引きで対戦。なんと勝利した側に「国境が動いてしまう」というルールだそうで、国の威信と領土を賭けた、地域住民の熱い戦いが繰り広げられる。



凡例

— 銀の道 (サイクリング) *	● 主な施設
P 駐車場・駐車可能場所	♿ トイレ(車いす可)
♿ トイレ	🍴 レストラン・食堂

* 銀の道に最も近いと思われる車道をサイクリングコースに設定していますので、本来の銀の道とは異なる場合があります。

「銀の道」の大部分は、地域の皆さんの生活道路です。交通法規を守り、迷惑運転にならない様、注意して運転してください。

①九日市の本陣跡
早朝大森を出発した輸送隊は、日暮れ時に九日市に着く。第一夜を迎える宿場には、本陣「原田屋」と脇本陣「鍛冶屋」があった。

③橋台として使われた岩
かつてここに土橋があった。その橋の橋台として利用されていたという岩が、新しい橋の下に残されている。

②馬頭観音
観音菩薩の化身の一つ。江戸時代には家畜の守護神であり、旅の安全を守る菩薩でもあった。供養のために建てられたものも多い。

④酒谷の口番所跡
出雲との国境となるこの番所には、他の番所ではあまり例のない、門が道をまたぐようにして建てられていたという。

⑥京楽院
戦国時代、真言宗布教のために訪れた権大僧都京楽院徳有は、尼子・毛利の戦で苦しむ多くの村人たちを救ったと伝えられている。

⑧瀬戸の一里松跡
広島と松江の中間点にあたる瀬戸には一里松があった。松くい虫被害のため切り倒され、今は民家の裏にその切り株が残っている。

⑩赤名峠
出雲と備後の国境で、昔から難所として知られていた。当時の街道は、赤名トンネル手前から急な坂を上るように進んでいた。

⑤境木
出雲の国と石見の国との国境を示す標木。1826年に立て替えたという記録もある。傷みがひどく朽ちていたため、2006年に復元された。

⑦赤名の道標
銀の道は赤名で出雲大社への参詣道として整備された。出雲街道と合流する。街道脇には、1856年代に建てられた道標が残っている。

⑨北野の馬頭観音
街道は、いよいよ赤名峠にさしかかる。その坂の口に、旅人の行路安全を祈る馬頭観音が残されている。

⑪万右衛門の墓
魚売り万右衛門が磯五郎に殺され金を奪われた事件は、現場が藩境で天領にもからみ、説明が難しかったという記録が残っている。

布野の

銀の道 CYCLING MAP



陰陽の交易拠点で栄えた 商都の面影を追う。

3

布野の

三次の

銀の道

CYCLING MAP



路上
にて

うだつのあがる三次・本通り★

「うだつがあがらない」という慣用句があるが、三次市の旧中心街「みよし本町通り商店街」には数多くの卯建（うだつ）があがっている。卯建は隣家の火事除けに設けられたものだが、昭和初期までは商家繁栄のシンボルでもあったという。本通りの町家の軒を見ると、本卯建や袖卯建、袖壁や屋号の趣を味わえ、商都として発展した面影を感じる。

2005年に国土交通省の夢街道に認定され、道路の石畳化や電線の地中化など、歴史的街並みの再生も行われている。



①常夜燈
上布野の街の入り口にある常夜燈。旧出雲街道の標識に沿って備後最北端の布野宿に、江戸時代のルートで入っていく。



③中村憲吉旧居
布野町出身の中村憲吉の書簡や歌集、掛け軸などを展示。アララギ派歌人の著作を集めたコーナーを設けた布野図書館が隣接する。



⑤下布野の道標
かつて下布野一帯は湿地帯であり、沼地をさけるため街道はこゝろあたりから山に入り、三次の山家地区へと向かう。



②布野の宿
瀬戸内と山陰を結ぶ広島藩最北の宿駅で、陰陽交易の要衝として早くから町が形成されていた。当時の道筋が市街地に残っている。



④松雲寺の五輪塔
松雲寺には、1322年建立の五輪塔がある。銘のある五輪塔では広島県最古のもので、県重要文化財に指定されている。



⑥神野瀬川の渡し
渡しをこえた三次の山家に、神野瀬原という所があり、川が増水して渡れない時、各地の神主が来て祈ったという話が残っている。



⑧三次市文化会館
三次市役所（商工観光課）



⑩三次市歴史民俗資料館
三次市観光協会



⑨稲生武太夫の碑
奥田元宋・小由女美術館



凡例	
銀の道（サイクリング）※	主な施設
P 駐車場・駐車可能場所	トイレ（車いす可）
トイレ	レストラン・食堂

※銀の道に最も近いと思われる車道をサイクリングコースに設定していますが、本来の銀の道とは異なる場合があります。

「銀の道」の大部分は、地域の皆さんの生活道路です。交通法規を守り、迷惑運転にならない様、注意して運転してください。



⑦山家一里塚跡
広島藩が、1633年から藩内の街道を整備した。この時設置された一里塚跡があり、大きな松の切り株が残っている。



⑨三次の道標
三次は諸街道の分岐点。古い道標には「左八ひろしま、右八出雲大社」と書かれている。銀輸送隊は三次で第2夜を過ごす。



⑧稲生武太夫の碑
江戸時代に、三次藩士の「稲生武太夫」が、三次で出会った奇想天外な「物の怪話」の聞き書きが残されている。



⑩運甕居（うんぺききょ）
「頼山陽」の叔父「頼杏平」が、奉行であった頃に作った家。常に戦いに備え資材の準備を怠らないという中国の故事から名づけられた。

三次

三良坂

吉舎

宇賀

甲奴

世羅

4

三次

世羅

銀の道

CYCLING MAP

銀山を支えた白炭の里と、 白壁の映える金融の街へ。

①一字一石塔

南無妙法蓮華経の名号石と共に、一字ずつ刻まれた石があった。水難にあった人々の供養のため置かれたという説が残っている。

②奥家住宅

家には1788(天明8)年の普請帖が残され、この地方の18世紀後期を代表する民家として国の重要無形文化財に指定されている。

③下素麺屋の一里塚跡

1633年頃幕府は主な街道約4km毎に、塚を作り松を植えた。一里松は平成4年松食い虫のため枯れ、今は切り株が残っている。

④福六酒造の酒蔵

吉舎の馬洗川に架かる巴橋の南側に、1904(明治40)年創業の福六酒造の白壁が美しい酒蔵。残念ながら現在は使われていない。

⑤吉舎歴史民俗資料館

三玉大塚古墳からの出土遺物や、備後国の有力国人「和智氏」関係資料の展示のほか、この地方の農家を復元したコーナーなどがある。

⑥歴史的街並み

吉舎は街道の宿場として栄えたが、その面影を残す街並みが吉舎町市街の各所に残っている。

⑦宇賀の辻堂

地元では、郷地蔵(ごうじぞう)さんと呼ばれている。銀の道はこの先で「笠岡ルート」と「尾道ルート」に別れる。

⑧頼藤の道標

広石から越えると頼藤に出る。街道の交差点に三角柱の道標が残されている。三角柱の形を残したものは非常に珍しい。

⑨八王子神社の常夜灯

この常夜灯には天照皇大神、厳島大明神などの刻字が見え、塔身そのものがご神体を兼ねている。

⑩上下大師堂

旧街道に面しており、町の入り口となる場所に大師堂が建立されている。今でも、地域の人々の信仰が厚く、供え物が絶えない。

⑪旧角倉家の横門

この門はもともと代官所の門であったが、角倉家が払い下げを受けたもの。すぐ近くの外門も見応えがある。

⑫旧郷宿跡

かつて役所の仕事を代行する「郷宿」と呼ばれる公事所があった。その名残を示す虫籠窓(むしこまど)やうだつが残されている。

⑬天領代官所跡

幕府の天領であった上下には、代官所が置かれていた。現在は役場支所となっているが、石垣は当時のまま残っている。

凡例

- 銀の道(サイクリング)※
- 主な施設
- 駐車場・駐車可能場所
- トイレ(車いす可)
- トイレ
- レストラン・食堂

※銀の道に最も近いと思われる車道をサイクリングコースに設定していますので、本来の銀の道とは異なる場合があります。

「銀の道」の大部分は、地域の皆さんの生活道路です。交通法規を守り、迷惑運転にならない様、注意して運転してください。



ワニ食べる or 食べない?

三次市を走っていると、時折、「ワニあります!」などと書かれた看板を目にする。ワニ、とはサメのこと。冷凍技術が未発達だった頃、山間部である備北地域では魚を口にする機会が少なかったが、サメは保存がきくことから重宝されたという。お店の方によると、「秋祭りやお正月には必ずと言っていいくらい食べるし、普段の食卓にも並ぶ郷土料理」だそうだが、「三次や甲奴は食べるけど、上下ではあまり食べない」などの地域差もあるようで、なかなか興味深い。



路上にて

世羅町 府中市

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得、同院発行の万分の1地形図を使用した。承認番号平23情使第53号



①砂田木徳堂と古道
砂田の木徳堂に古道がそのまま残っている。この辻の梁などには、参拝者が記した文字が残っており興味深い。



②もみの木の日本回国塔
回国塔は巡礼者が諸国をめぐる際、奉仕作業として建てたもの。「右みはら・左おのみち」文化13年(1816)と彫られている。



③赤屋八幡宮
創建時期は不明だが、鎌倉時代の終わり頃にはあったと推察される。社叢は昭和26年に広島県の天然記念物に指定されている。



④今高野山総門(仁王門)
「今高野山」の総門として室町時代に建立された。屋根や仁王像の囲い等は後世の補修だが、建立当初の姿を今もとどめている。



⑥宇津戸常夜灯
短いながら、かつての宿場町の雰囲気を残す街並みの旧国道沿いにある常夜燈。道は宇津戸の街の中心である観音寺に向かっている。



⑥宇津戸常夜灯
短いながら、かつての宿場町の雰囲気を残す街並みの旧国道沿いにある常夜燈。道は宇津戸の街の中心である観音寺に向かっている。



⑦観音寺の道標
宇津戸には、かつての宿場町らしい景観が残り、観音寺の前に石州街道を示す道標が建っている。

凡例

— 銀の道 (サイクリング)※	● 主な施設
P 駐車場・駐車可能場所	♿ トイレ(車いす可)
♿ トイレ	🍴 レストラン・食堂

※銀の道に最も近いと思われる車道をサイクリングコースに設定していますので、本来の銀の道とは異なる場合があります。

「銀の道」の大部分は、地域の皆さんの生活道路です。交通法規を守り、迷惑運転にならない様、注意して運転してください。



⑧焼石
1309年、荘園が領家分と地頭分と分けられた。その境となった所に「焼石」と呼ばれる境界石が残っている。



⑨公文の辻堂・常夜灯
耕地整理による移転があったと思われる所に、辻堂と常夜灯が建っている。かつては、この辺りに街道が通っていたと思われる。



⑩高尾の辻堂
今でも道行く人の休憩場所として、充分使えそうな立派な辻堂。屋根の中心に仏式霊廟の宝珠露盤のような装飾がほどこされている。



⑪御調高校前の常夜灯
「金常夜灯」と刻銘されている。旧石見街道に面していたが、昭和初期の道路変更と共に現在の場所に移転された。

路上にて
駅伝と梨の町・世羅でスッキリ!★



「甲山いきいき村」で、ポップなラベルの飲み物を見つけた。その名も「世羅とした梨 ランニングウォーター」(120円)。駅伝の名門、広島県立世羅高校の生徒たちがネーミングやラベル、味などをプロデュースして共同開発したという。お店の方によると、「スッキリとした飲み口で汗をかいた後にピッタリ」とのこと。売れ行きも好調という。売上の一部は世羅高校の陸上部後援会に寄付されている。地域の人たちの世羅高校に対する思いも詰まった一品だ。

5

世羅 ▶▶▶ **御調**

銀の道 CYCLING MAP

**荘園の歴史と古寺の伝承、
ロマンあふれる街道をゆく。**



0 1,000 2,000 3,000m



⑪道の駅「クロスロードみつぎ」



中世・近世の遺跡を残す、 風光明媚な港町に到る。



銀の道の終わりは、海の道の始まり。

35里(140km)に及ぶ「銀の道」は、尾道で終点を迎える。と同時に、尾道は「しまなみ海道」のスタート地点でもある。銀の道のゴールである出雲大社道起点の碑から尾道港に進み、尾道水道を眺めると左手に見えるのが尾道大橋だ。しかし、狭くて危険なため自転車は渡船を利用するのが一般的とのこと。乗船時間はほんの数分だが、坂の町・尾道の景色を眺めながらの船旅もなかなか新鮮。ここから、また新たな自転車の旅に進んでいくのも一興かもしれない。



①市原の辻堂

市原の道沿いに辻堂が建っている。隣には常夜灯が建っており、かつては街道筋であったことを物語っている。



③身代わり地蔵

尾道市内各所にこうした辻堂が残っており、四つ堂とも呼ばれている。この堂内には、身代わり地蔵が安置されている。



⑤三成の常夜灯

道沿いに建っている常夜灯。その足元の石には、願事を唱えながら石棒でたたいた痕が残っており、「杯状穴」と呼ばれている。



②市原の常夜灯

1860年に建立された常夜灯。隣に建つ辻堂と共にかつて街道を行く旅人を見守っていたのであろう。



④三成の六地蔵

周辺の様々な古石塔、五輪塔を集めて祀っている。中世には、この近くに生活の場があり、墓地もあったことが想像される。



⑥馬小屋跡

かつて、街道沿いには乗換用の馬が用意しており、その馬小屋と思われる跡がここにあった。現在は駐車場となっている。



⑦長江の道標

街道は県道363号から東よりの通りに入る。ここは畳問屋街となっており、かたい隅に出雲街道を示す道標が残っている。



⑨丹花小路(たんがしょうじ)

銀の道はここでJR山陽本線で分断され、線路の南側では丹花小路と呼ばれる狭い道となる。小路沿いには常夜灯も残っている。



⑧畳問屋

県道363号より東に一本入った通りに、畳問屋街の名残をとどめている建物がある。今はここだけが往時の面影を残している。



⑩尾道の本陣跡

輸送隊を率いた代官所役人が宿泊した本陣跡には、今でも立派な礎石が残っている。銀はここから船で積み出されたと思われる。



⑪出雲大社道起点の碑

街道に残された出雲大社道の起点を示す碑。尾道から出雲大社を目指す旅人の起点となる場所である。



⑫住吉神社

当時とは社の向きが違おうが、今も昔も海の安全を見守っている。銀を積んだ船もここで安全を祈願したことだろう。



凡例			
— 銀の道(サイクリング)※	● 主な施設		
P 駐車場・駐車可能場所	♿ トイレ(車いす可)		
♿ トイレ	🍴 レストラン・食堂		
※銀の道に最も近いと思われる車道をサイクリングコースに設定していますので、本来の銀の道とは異なる場合があります。			
「銀の道」の大部分は、地域の皆さんの生活道路です。交通法規を守り、迷惑運転にならない様、注意して運転してください。			